

みず いり い せき

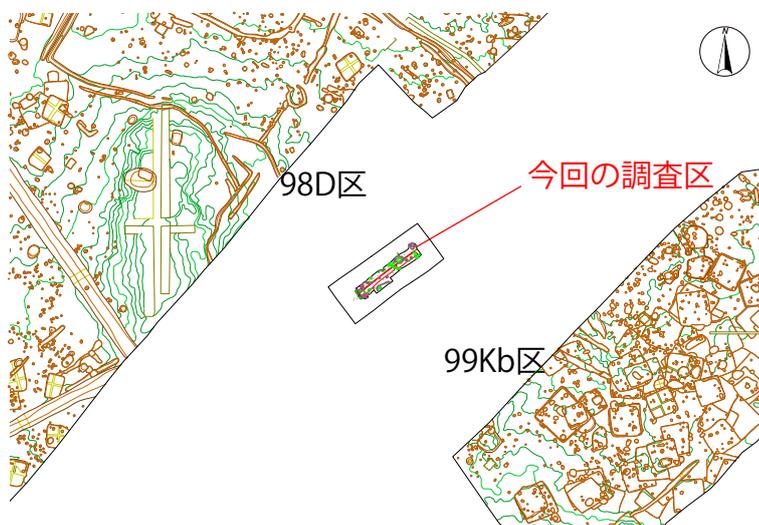
水入遺跡調査速報

去る 2014 年 5 月 7 日～ 30 日まで水入遺跡の発掘調査を行いました。調査区は豊田東インターチェンジの敷地内に位置します。NEXCO 中日本の新たな施設の建設予定地です。

水入遺跡は過去に当センターによって 1997 年から 1999 年かけて、調査が行われています。



▲北東上空から調査区を望む

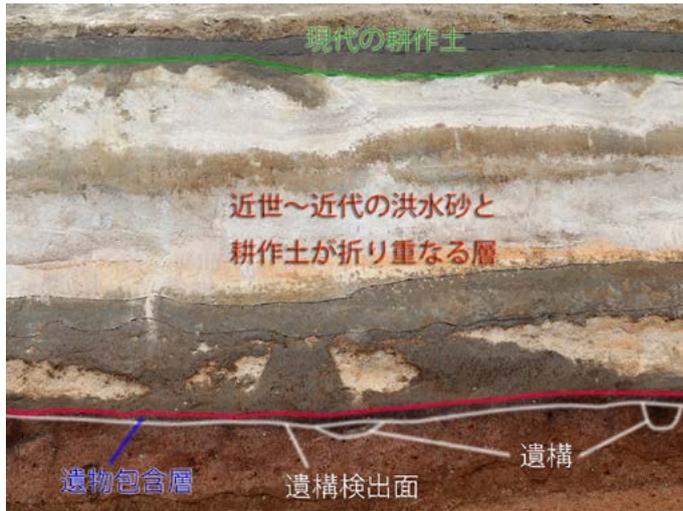


▲旧調査区との位置関係

前回の調査では旧石器時代から江戸時代にかけての遺物や遺構を確認し、大きな成果を得ています。

今回の調査区は旧調査の 98D 区と 99Kb 区に挟まれた未調査区域に該当します。調査面積は前回の調査と比較にならない程、面積は小さいですが、古代の建物跡や中世のお墓と思われる遺構や遺物が確認でき、狭いながらも貴重な成果が得られました。

▶土も積もれば・・・



▲土の堆積の様子

まず、堆積している土を見てみましょう。

耕作土と洪水の時に運ばれてきた厚い砂層が交互に堆積しています。約400年足らずの間、江戸時代から現代にかけて、耕作と洪水が繰り返されて、形成された層です。

その下に黒っぽく写っているのが戦国時代より古い遺物が入っている遺物包含層となります。

さらにその下にある褐色の層の上面が今回、遺構が見つかった面になります。

さて、その見つかった遺構とは・・・

▶見つかった遺構



▲古代のたてあな竪穴建物跡

一辺が約2mで柱穴を伴うたてあな小型の竪穴建物跡です。前回の調査でも、古代の遺構として、このような規模のものが確認されています。住居というより、何らかの作業スペースだったようです。

当初は壁から角がほんの僅か見えてただけでしたが、最後に確認のため調査区を拡張したおかげで見つけることができました。

長軸約1.1mの隅丸長方形の土壇がほぼ直交するように同じく長軸約1.1mの楕円形どこうの土壇の上に重なっています。残念ながら、遺物は見つかりませんでしたが、その規模や形状から、中世のお墓と推定されます。

その他にも大小様々な柱穴、どこう土壇、溝などが見つかります。



▲中世のどこう土壇墓断面（切り合い）

▶見つかった遺物



▲柱穴から出土した中世の^{やまぢやわん}山茶碗（底部）

遺構の検出作業のとき、周りとは土の色が違う黒っぽい土から見つかった遺物です。

中世の^{やまぢやわん}山茶碗の底の部分でした。

この後、遺物を取り上げて、記録を取りながら、黒っぽい土が入っている形状通りに掘り進めていくと柱穴であることが判りました。



▲^{みずいりいせき}水入遺跡出土遺物

遺物のほとんどは遺物包含層から見つかったものでした。

一番多かったものは中世の^{やまぢやわん}山茶碗の破片でした。

その他、土器（^{はじき}土師器）片、石器を製作したときに出る^{はくへん}剥片も見つっています。

▶実質最高到達点 31m ! (25m + 6m) 上空からのよもやま話 (^_^ ;)



▲高所作業車からの撮影 (2回目)

調査区の全景は最大 25m の高さまで上がる高所作業車から撮影しました。今回は現地表面から 4m 掘り下げたから、さらに 2m 掘り下げるため、安全を考慮して小段を設けました。そのため、重機用の作業スペースが十分に確保できないので、調査区を東と西に分けて、調査を行いました。全景も 2 回に分けて撮影しています。

▶最後に合わせてみたら・・・



▲調査区全景 (合成写真)

後から掘った東側は、少しでも多くの遺構を見つけようとして、ほんの気持ちだけ幅広に掘って頂いたせいで、写真で合わせるとズレてしまう結果になってしまいました (^_^ ;)

(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

<http://www.maibun.com/top/>